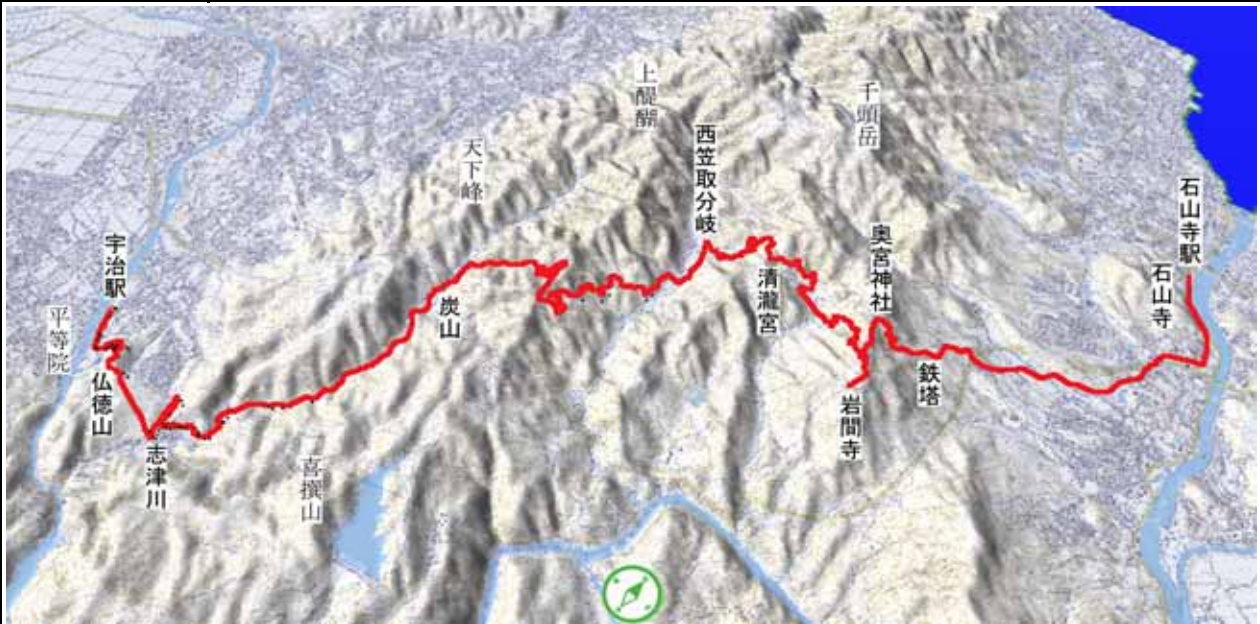


健康登山18:自然歩道08(石山寺～宇治)

コース	石山寺駅 0.7km/10 0.7km/19 山 5.0km/69	石山寺 4.0km/61 岩間寺 3.2km/65 志津川 1.2km/32	鉄塔下 1.1km/26 清瀧宮 1.8km/25 仏徳山 1.6km/20	奥宮神社 西笠取分岐 5.7km/95 宇治駅	炭
水平距離	24.9km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	21.1km				
累計高低差	登り1206m、下り1279m				
標準歩行時間	7:03				
実績歩行時間	7:00				



山行報告

山行日	2006・11・2(木)	天候	晴れ	参加者	9名
行動	石山寺駅9:03 標11:50 志津川16:05	石山寺9:19 清瀧宮12:14~58 仏徳山16:29	鉄塔下10:18 西笠取分岐13:25 宇治駅17:09	奥宮神社10:54 アクトパル宇治13:40	岩間寺11:21 炭山14:52

記録

東海自然歩道の本線は石山寺から信楽を経て柘植へ向うのだが、これとは別に山の辺ルートが設けられている。私達も京都南部から奈良を経て柘植へ向う山の辺ルートを迎えることにした。今回はその第一回目として石山寺、岩間寺、東笠取、西笠取、炭山、志津川、仏徳山(大吉山)などを通して宇治駅まで25kmを歩いた。

行程の大部分が車道で、アスファルトの照り返しを考えると夏場にはとても歩けないと思った。とくに石山寺から中千町交差点までの3kmほどは交通量が多く路肩を注意深く歩かねばならなかった。しかし、その後は車も激減し快適なハイキングが楽しめた。

京滋ハイパスを越え2本目の高辻線のトから真止面に千頭岳が見える、ここで小休止、ここまで約1時間。程なく鳥居がありここから奥宮神社へ登った。奥宮神社には展望台があり湖南地方が一望できる。ここから15分ほどで岩間寺に着く。岩間寺には日本一といわれる株立ちのカツラの大木(幹周21m、主幹の幹周11.56m)がある。

岩間寺から西へ下ると東笠取に出る、典型的な山村で日本の原風景を見ているようだった。西笠取への峠の手前にある清瀧宮で昼食をさせてもらった。明日がお祭りということで世話役さんがしめ縄を取り替えておられた。

峠から下り切ったところが西笠取で上醍醐へ向う分岐点がある。私たちは南下して炭山へ向った。アクトパル宇治から谷山林道を通り炭山へ向った。ここから志津川へ向うのだが地元の人から車に気をつけるように言われた。

志津川から散策道に入り平等院の借景になっている仏徳山(地元では大吉山と呼ばれる)に登り、展望台から大阪方面の景色を見た後、宇治駅へ下り解散した。

自然歩道 (石山寺~岩間寺~宇治)



石山寺  
9:15



千頭岳を見る  
10:25



奥宮神社へ  
10:41



岩間寺  
11:21



カツラの大木  
11:31



東笠取へ  
11:44



清瀧宮にて  
12:52



アクトパル宇治  
13:44



志津川へ  
14:30



大吉山展望台  
16:46

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：石山寺～岩間寺～宇治）

- ◎ 醍醐寺：真言宗醍醐寺派総本山、理源大師しやうほう 聖宝（修験道中興の祖）が深草の普明寺で7日間祈禱し、五色にたなびく雲に導かれて笠取山（醍醐山）に登り、水辺で休んでいると、地主神の横尾明神が老翁として現れ、水を飲んで「醍醐味なるかな」といい、聖宝もまた水を飲み「醍醐の妙味」と賞したのが醍醐の名の始まり。
- ◎ 岩間寺：正しくは岩間山正法寺しやうぼううじ（真言宗）〔西国第十二番札所〕  
養老6年(722)に元正天皇の勅願で泰澄律師が創建したと伝える。泰澄が岩間山にきてカツラの木で千手観音を刻み本尊としたと伝える。この観音様は毎夜136の地獄をめぐる衆生の苦を救うので朝岩間に帰ったときは汗びっしょりであったと伝え、汗かき観音ともいわれている。この寺の薬湯はリューマチによく効くと、入湯者も多い。  
近江と京都の境の山頂にあるため、東に琵琶湖、西に山城、河内平野ものぞまれる。  
また境内の蛙池は、松尾芭蕉の一句「古池や 蛙飛こむ 水のをと」と詠んだ池です。
- ◎ 笠取地区：標高200ふたの山間地帯、1000年以前に集落が出来笠取山(370m)をはさみ東笠取と西笠取に大別される。
- ◎ 笠取八景：昭和30年頃地域の青年たちが選定したもの  
1 横嶺(峠)の展望…桜・緑・紅葉・標高400ふた百万ドルの夜景  
2 宝篋塔の時雨…醍醐登山口、黒出にある。高さ6.7ふた、享保17年(1733)宝篋塔にお供えすると前世・現世・来世の罪が消える、と梵字あり。  
3 清瀧宮の月見…山あいから上がる月、鹿の声、虫の声  
4 御旅の青楓大き…な岩また岩、老木、老藤、青楓、椿、紅葉五色の森  
5 御霊の瀧…うぐいす、ホトトギス、山百合、冬の氷柱  
坂田の金時きんときが産湯を使ったのがこの瀧、岩場に金時がすんだ洞穴あり  
6 毘沙門峽の清流…清流に大小彩る岩陰に飛び交うゲンジホタル  
醍醐東南の谷あいの下荘地区の守護神、横尾明神(横尾山の山ノ神の化身 醍醐山の開創聖宝と醍醐水を飲んだ山ノ神)を毘沙門堂に祀る  
7 岩分いわわけ…高く切り立つ岩肌が頭上を覆う岸壁を縫って細い小道  
8 夕映えの一本杉…樹の上から天狗が笠取の村を見下ろした天狗杉  
昭和40年に枯れ切り株は保存され二代目が育っている
- ◎ 東笠取清瀧宮せいりようぐう：祭神はオオヤマツミノミコト  
鳥居は四脚両部鳥居、安芸の宮島、厳島神社の鳥居と同じ形  
お灯明は地元の持ち回りで一年中ともっている

- \* コハウチハカエデ：葉が天狗の団扇に似ている小さなカエデ高さ 5 尺<sup>（尺）</sup>周囲 1.3 尺<sup>（尺）</sup>の古木、樹全体の形が盃の形をしている
  - \* サカキ：樹齡 200 年高さ 7 尺<sup>（尺）</sup>周囲 9 尺<sup>（尺）</sup>
  - \* 天狗杉：峠の天狗杉、お宮の上の新道にある大きな杉の切り株、むかしこの杉の木に天狗が住んでいたと言い伝えがある、天狗神社の祠がある
- ◎ 西笠取清瀧宮<sup>（きよたきぐう）</sup>：豊作、安全水の確保を願うため上醍醐寺の清瀧宮を勧請した
- \* スギ：笠取で 1～2 位で背が高い、樹齡 150 年高さ 28 尺<sup>（尺）</sup>周囲 2.3 尺<sup>（尺）</sup>
  - \* シイ：参道入り口、樹齡 300 年高さ 28 尺<sup>（尺）</sup>周囲 2.7 尺<sup>（尺）</sup>
- ◎ 奥宮神社：東清瀧宮の奥宮として昭和 46 年奉斎、祭神は大山津見命  
近江平野を一望する高地にあり、竹生島も遠望できることもあるらしい。
- ◎ 笠取七つの森：昔から笠取に七つの森が有り掃除したり手を入れたりすると、悪いことが起こると言い伝えられている。
- 1 垂乳<sup>（たるちち）</sup>の森：東笠取。水釜の谷あい、樹齡 400 年のスギの木あり、この木から滴り落ちる水をのめば産婦の乳の出がよくなるとか。
  - 2 柎<sup>（ひいらぎ）</sup>のもり：東笠取中畑にある。ヒイラギの木が多い。他にツバキ、アラカシ、シイ
  - 3 青の森：東笠取、四ノ谷。大きな岩と鬱そうと繁る森、苔と森の青さが際だっていた。
  - 4 仮屋<sup>（かりや）</sup>の森：東笠取、稲出。仮屋はお旅所の意味あり、若宮神社辺りをさす
  - 5 黄金<sup>（こがね）</sup>の森：西笠取、石原。秋の稲穂に囲まれている森  
黄金の森のツバキの枝を切ったお爺さんが腹痛になるお婆さんが黄金の森にお供えして何度も誤ったらけろっと治った。いまでも大きな岩とツバキの木がある。
  - 6 お旅の森：西笠取、森。昔清瀧宮のお旅所があった、森の巨岩の穴に牛馬の糞を詰めて雨乞いしたという、晩秋になっても紅葉しないカエデがあり、笠取山の青カエデといわれ、花山天皇または西行法師の命名という。
  - 7 うなぎの森：西笠取、屋シ谷。昔このあたりでウナギがたくさん捕れた、この森にも大きな岩があり、今は朽ちているが岩と岩の間に小さな祠がある、この大きな岩に上ったりすると吹き飛ばされるという。蛇の神様が住んでいると伝える。
- ◎ 炭山陶芸村：1966 年一軒の廃屋から京焼きの新天地として発展昭和 40 年後半には 30 余の窯元が立地するに及び現代では 50 近くの窯元があり京焼きの里として確立した。
- ◎ 菟道<sup>（とどう）</sup>：「うじ」「うど」とも読む。宇治市の地名、
- ◎ 菟道稚朗子<sup>（うじのわきいらつこ）</sup>の墓：京阪宇治駅の北側、宇治川の東畔に見える森。  
明治 28 年宮内省によって浮き舟の杜と呼ばれていた場所を買い取られて菟

道稚朗子の墓とした(宇治墓)

※ 記紀では仁徳天皇に菟道の山に葬られたとあり、江戸時代までには朝日山(124.1m)山頂の経塚が墓とされていた。

- ◎ 菟道稚朗子皇子: 応神天皇と木幡和珥<sup>わに</sup>の豪族日触使主<sup>ひふれのおおみ</sup>の娘宮主宅媛<sup>みやぬしやかひめ</sup>との間の(第六子)。王仁<sup>わに</sup>から典籍を学び学問に秀で父(応神)の信任も厚く皇太子に任命されるが、応神天皇の死後、異母次兄第四子の大鷦鷯尊<sup>おおさぎのみこと</sup>(仁徳天皇)と互いに皇位を譲りあい菟道宮に籠もるが三年も空位となり、自ら命を絶って皇位を譲った悲劇の皇子。大鷦鷯尊に同母妹八田皇女を娶ることをたくして死ぬ。
- ◎ 宇治神社: 祭神は菟道稚朗子。応神天皇、仁徳天皇。  
明治まで宇治上神社と一体で両社合して宇治離宮八幡宮(明神)と呼ばれ、離宮下社若宮、宇治上神社を離宮上社とよんだ。  
※宇治神社本殿には菟道稚朗子命等身大坐像(国重文・平安)が祭られている。
- ◎ 宇治上神社: 明治時代に宇治神社と分かれる。祭神は左殿に稚朗子命、右殿に仁徳天皇中殿に応神天皇をまつる。現存する最古の神社建築(平安時代唯一)世界遺産に指定された。(平等院もこの頃に造営されている)  
古くは応神天皇の離宮、ついで菟道稚朗子の桐原日桁<sup>きりはらひげたのみや</sup>宮が営まれたという。境内に宇治七名水の桐原水<sup>きりはら</sup>がある。他の六水は枯れてない。
- ◎ 佛徳山: 標高 131.8m 山頂は整備され展望台がある。  
仁徳の名と対比する山名から、佛徳山を古墳の西後円部とすれば東側に前方部に当たる小山が朝日山にあたる。仁徳が天然の岩の上に佛徳・朝日山墓地を作ったのでないか。  
(その後母の磐之媛陵、父の応神陵と造った)  
古墳も寺社も歳時記が原点にあり、自ら天文観測をして暦を作り、祭りの段取りを進めてきた、そのため小高い見晴らしのよい場所が選ばれた。いまでは明神、権現が祀られている所もある。  
冬至の日には朝日山の東南から日の出する。佛徳山北東の明星山 233m は金星を観測、  
さらに北東に岩間山(寺)443m があり応神の鎮魂方位を示唆している、逆方向に平等院、延長線上の東淀川で応神天皇が崩御した大隈宮があった。  
佛徳山は応神天皇と菟道稚朗子の御霊が交差する霊的ポイント。  
[神々の歳時記より]